

日本学術会議 生物リズム分科会 公開シンポジウム

概日生理学の新しい地平

日時：2018年7月14日（土）15:00～17:05

場所：北海道大学学術交流会館小講堂 011-706-2141
(札幌市北区北8条西5丁目、北大正門より入って左手)

バクテリアからヒトまで、地球上のほぼすべての生物は生物時計をもち、様々な機能に約24時間のリズムをつくりだしています。一方、ヒトでは不規則な生活リズムや睡眠不足が生活習慣病、うつ病などの誘因となっています。生物時計研究の進展は目覚ましく、分子レベルで生物が時を刻む仕組みが次々と明らかにされ、その基本的なメカニズムが、生物種を問わず驚くほど類似していることも分かってきました。本シンポジウムでは、シアノバクテリアの時を刻むタンパク質の仕組みから、ヒト睡眠覚醒リズムの大規模調査研究まで、最先端の研究成果を講演していただきます。シンポジウムを通じて、生物のリズムと自然や社会環境のサイクルとの関わりを見つめなおし、日々の生活や教育に活かしていただければ幸いです。皆様の参加をお待ちします。

プログラム

座長 近藤孝男（名古屋大学名誉教授）
深田吉孝（東京大学教授）

- 15:00** 概日時計の今日的意義
本間研一（北海道大学名誉教授）
- 15:05-15:35** 藍藻における概日周期と温度補償性の分子科学
秋山修志（自然科学機構分子科学研究所教授）
- 15:35-16:05** ほ乳類生物時計の振動体ネットワーク
本間さと（北海道大学客員教授）
- 16:05-16:35** ほ乳類中枢時計神経ネットワークの遺伝学的解析
三枝理博（金沢大学教授）
- 16:35-17:00** 実社会における大規模睡眠研究プロジェクト
Till Roenneberg（ミュンヘン大学教授）
- 17:05** シンポジウム総括
近藤孝男（名古屋大学名誉教授）

主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会、アショフ・ホンマ記念財団

共催：日本時間生物学会

後援：日本生命科学アカデミー

参加費無料
事前登録不要

連絡先：アショフ・ホンマ記念財団
tel：011-520-2345

提言等の提出チェックシート

このチェックシートは、日本学術会議において意思の表出（提言・報告・回答、以下「提言等」という）の査読を円滑に行い、提言等（案）の作成者、査読者、事務局等の労力を最終的に軽減するためのものです。

提言等（案）の作成者は提出の際に以下の項目をチェックし、提言等（案）に添えて査読時に提出してください。

	項目	チェック
1. 表題	表題と内容は一致している。	1. はい
2. 論理展開 1	どのような現状があり、何が問題であるかが十分に記述されている。	1. はい
3. 論理展開 2	特に提言については、政策等への実現に向けて、具体的な行政等の担当部局を想定していますか（例：文部科学省研究振興局等）。	1. 部局名： 内閣官房、 厚生労働省、 文部科学省
4. 読みやすさ 1	本文は 20 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。※図表を含む	1. はい
5. 読みやすさ 2	専門家でなくとも、十分理解できる内容であり、文章としてよく練られている。	1. はい
6. 要旨	要旨は、要旨のみでも独立した文章として読めるものであり 2 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。	1. はい
7. エビデンス	記述・主張を裏付けるデータ、出典、参考文献をすべて掲載した。	1. はい
8. 適切な引用	いわゆる「コピペ」（出典を示さないで引用を行うこと）や、内容をゆがめた引用等を行わず、適切な引用を行った。	1. はい
9. 既出の提言等との関係	日本学術会議の既出の関連提言等を踏まえ、議論を展開している。	2. いいえ
10. 利益誘導	利益誘導と誤解されることのない内容である。	1. はい
11. 委員会等の趣旨整合	委員会・分科会の設置趣旨と整合している。	1. はい

※チェック欄で「いいえ」を記入した場合、その理由があればお書きください

9. 関連した既出提言はありません。

記入者（委員会等名・氏名）：基礎生物学・基礎医学・臨床医学委員会、生物リ
ズム分科会、本間さと

参考：日本学術会議会長メッセージ、「提言等の円滑な審議のために」（2014 年 5 月 30 日）。

<http://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/140530.pdf>